

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 18 年 2 月 16 日 (2006.2.16)

【公開番号】特開 2002-238211(P2002-238211A)
 【公開日】平成 14 年 8 月 23 日 (2002.8.23)
 【出願番号】特願 2001-29674(P2001-29674)

【国際特許分類】

H 0 2 K **7/06** **(2006.01)**

G 0 9 F **9/00** **(2006.01)**

F 1 6 H **1/16** **(2006.01)**

【F I】

H 0 2 K 7/06 A

G 0 9 F 9/00 3 1 2

F 1 6 H 1/16 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 26 日 (2005.12.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベースに固定される駆動源の駆動部分に当接する当接部材と、
 前記当接部材の前記駆動源の駆動部分との当接力を調整する調整手段を備えたことを特徴とする駆動装置。

【請求項 2】

前記駆動部分は駆動源の回転軸であり、前記当接部材が前記回転軸の軸線方向から当接することを特徴とする請求項 1 記載の駆動装置。

【請求項 3】

前記ベースに固定され、前記当接部材を回転自在に保持する取付部材とを有し、
 前記当接部材は、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在する押圧部とからなり、

前記調整手段は、前記ベースに形成されたベースねじ孔に螺合し、前記押圧部に作用して前記当接部を前記駆動源の駆動部分の方向へ回転させるとともに、進退により前記当接部の当接力を調整する調整ねじとからなることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の駆動装置。

【請求項 4】

前記ベースに固定され、前記当接部材を回転自在に保持する取付部材とを有し、
 前記当接部材は、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在する押圧部とからなり、

前記調整手段は、前記押圧部に形成された押圧部ねじ孔と、前記ベースに形成された挿通孔と、該挿通孔に挿通し該押圧部ねじ孔に螺合するとともに、進退により前記当接部の当接力を調整する調整ねじとからなることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の駆動装置。

【請求項 5】

前記当接部材は、弾性部材により形成されていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の駆動装置。

【請求項 6】

前記当接部の曲げ部には補強用のリブが形成されていることを特徴とする請求項 3 又は 4 に記載の駆動装置。

【請求項 7】

前記当接部材は、前記駆動源に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在するとともに、駆動源の方向に長い長孔が形成された取付部とからなり、

前記調整手段は、前記ベースの前記長孔に対応する位置に形成されたねじ孔と、該ねじ孔を挿通し該取付部を所望とする位置に固定する調整ねじとからなることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の駆動装置。

【請求項 8】

前記当接部材は、前記取付部が、前記ベースの外側になるように構成されていることを特徴とする請求項 7 記載の駆動装置。

【請求項 9】

前記当接部材は、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在するとともにねじ孔が形成された取付部とからなり、

前記調整手段は、前記ベースの前記ねじ孔に対応する位置に形成された長孔と、該長孔を挿通し該取付部を所望とする位置に固定する調整ねじとからなることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の駆動装置。

【請求項 10】

被駆動部を駆動させる駆動源と、

前記駆動源の駆動部分に当接する当接部材と、

前記当接部材の前記駆動源の駆動部分との当接力を調整する調整手段を備えたことを特徴とする駆動装置。

【請求項 11】

前記被駆動部が、ディスプレイであり、

前記駆動源の駆動部分が、前記ディスプレイの角度を調整するためのモータの駆動軸であることを特徴とする請求項 10 記載の駆動装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明は上述の目的を達成するもので、ベースに固定される駆動源の駆動部分に当接する当接部材と、前記当接部材の前記駆動源の駆動部分との当接力を調整する調整手段を備えたことを特徴とするものである。

また、前記駆動部分は駆動源の回転軸であり、前記当接部材が前記回転軸の軸線方向から当接することを特徴とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、前記ベースに固定され、前記当接部材を回転自在に保持する取付部材とを有し、前記当接部材は、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在する押圧部とからなり、前記調整手段は、前記ベースに形成されたベースねじ孔に螺合し、前記押圧部に作用して前記当接部を前記駆動源の駆動部分の方向へ回転させるとともに、進退により前記当接部の当接力を調整する調整ねじとからなることを特徴とす

るものである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

前記ベースに固定され、前記当接部材を回動自在に保持する取付部材とを有し、

前記当接部材は、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在する押圧部とからなり、前記調整手段は、前記押圧部に形成された押圧部ねじ孔と、前記ベースに形成された挿通孔と、該挿通孔に挿通し該押圧部ねじ孔に螺合するとともに、進退により前記当接部の当接力を調整する調整ねじとからなることを特徴とするものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、前記当接部材は、弾性部材により形成されていることを特徴とするものである。

また、前記当接部の曲げ部には補強用のリブが形成されていることを特徴とするものである。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、前記当接部材は、前記駆動源に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在するとともに、駆動源の方向に長い長孔が形成された取付部とからなり、前記調整手段は、前記ベースの前記長孔に対応する位置に形成されたねじ孔と、該ねじ孔を挿通し該取付部を所望とする位置に固定する調整ねじとからなることを特徴とするものである。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、前記当接部材は、前記取付部が、前記ベースの外側になるように構成されていることを特徴とするものである。

また、前記当接部材は、前記駆動源に当接する当接部と、該当接部と所定の角度を持って延在するとともにねじ孔が形成された取付部とからなり、前記調整手段は、前記ベースの前記ねじ孔に対応する位置に形成された長孔と、該長孔を挿通し該取付部を所望とする位置に固定する調整ねじとからなることを特徴とするものである。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、被駆動部を駆動させる駆動源と、前記駆動源の駆動部分に当接する当接部材と、前記当接部材の前記駆動源の駆動部分との当接力を調整する調整手段を備えたことを特徴とするものである。

また、前記被駆動部が、ディスプレイであり、前記駆動源の駆動部分が、前記ディスプレイの角度を調整するためのモータの駆動軸であることを特徴とするものである。